

2014年3月25日

報道機関各位

調査レポート

グラフで見る東海経済 (2014年3月)

【今月の景気判断】

東海経済は増税前の駆け込み需要もあり、持ち直している。緩やかな所得増に伴って個人消費の持ち直しが続いていたが、冬のボーナスの増加に加え、年明けから駆け込み需要が顕在化し、消費だけでなく、生産や輸入も増加している。一方、住宅投資は、契約ベースの駆け込み需要がピークアウトし、徐々に水準が低下している。輸出は、アジア向けを中心に増加が一巡している。雇用は求人倍率の上昇に一服感が出ている。

今後も、生産は年度末近くまで高水準で推移する見込みで、設備投資も一定の駆け込み需要が予想される。また、自動車業界を中心に春闘での賃上げ率が高まり、所得面から個人消費の持ち直しを支えるだろう。輸出が伸び悩む中、消費増税後は、生産や個人消費の反動減が避けられず、景気は一時的な低迷が予想されるが、公共投資や設備投資の下支えにより、景気後退局面に入ることは回避できる見込みである。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	↘	輸出	↘	☁	→
個人消費	↗	☁	↘	輸入	↗	☁	↘
住宅投資	↘	☁	↘	生産	↗	☁☀	↘
設備投資	↗	☁	→	雇用	→	☁	→
公共投資	→	☁	↗	賃金	↗	☁	↗

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～米中および新興国の景気先行き、日米の金融政策、ウクライナ情勢に伴う為替・株価への影響
- ・企業活動～消費増税前後の生産活動の増減、設備投資の企業規模や業種における広がり、米中向け輸出
- ・家計～春闘での妥結結果、食品・エネルギー等の物価上昇、増税前の駆け込み需要と増税後の反動減

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 [名古屋] シニアエコノミスト 内田俊宏

〒461-8516 名古屋市東区葵1丁目 19-30

TEL: 052-307-1106

【各項目のヘッドライン】

項目	2月のコメント	3月のコメント	ページ
1．景気全般	持ち直しが一服している	増税前の駆け込み需要もあり 持ち直している	3～4
2．生産	横ばい圏で推移	増税前の駆け込み需要により 増加している	5～7
3．雇用	緩やかに持ち直している	持ち直しが一服している	7～8
4．賃金	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	9
5．個人消費	緩やかに持ち直している	増税前の駆け込み需要もあり 持ち直している	10～11
6．住宅投資	持ち直しが一服している	緩やかに減少している	12
7．設備投資	製造業を中心に増加している	製造業を中心に増加している	12～13
8．公共投資	増加が一服している	増加が一服している	13
9．輸出入	輸出、輸入ともに横ばい	輸出は減少、輸入は増加	14～15
10．物価	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇	15
11．金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	16
12．倒産	倒産件数は横ばい、負債総額は減少	倒産件数は増加、負債総額は減少	16

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料:「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

- 1．景気全般
冬のボーナス増加に加え、年明けから駆け込み需要が顕在化し、個人消費が好調で、生産や輸入も増加している。
- 2．生産
1月の生産は増税前の駆け込み需要により前月比 + 8.0%と2ヶ月連続で増加した。
- 3．雇用
12月の東海3県の常用雇用指数は3県とも前年比で低下し、全国に比べて弱い動きが続いている。1月は愛知県の有効求人倍率が16カ月ぶりに、新規求人倍率が5カ月ぶりに悪化した。
- 6．住宅投資
1月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比 - 3.2%と2ヶ月連続で減少した。前年比では + 5.8%の9,105戸と17ヶ月連続の増加となったがプラス幅は縮小した。
- 9．輸出入
1月の実質輸出は前月比 - 3.9%と2カ月ぶりに減少し、実質輸入は同 + 6.5%と3ヶ月連続で増加した。

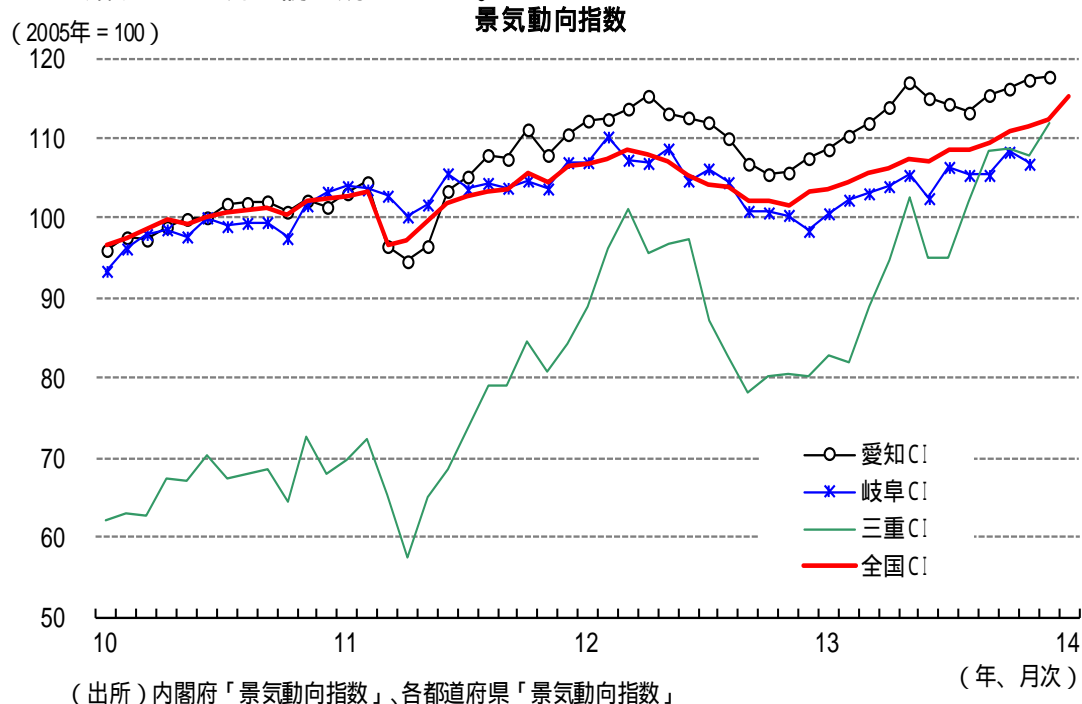
【主要経済指標の推移】

経 済 指 標		12 10-12	13 1-3	13 4-6	13 7-9	13 10-12	13 9	13 10	13 11	13 12	14 1	14 2
景気全般	景気動向指数 愛知（C I、一致指数）	106.2	110.3	115.3	114.3	117.1	115.4	116.2	117.3	117.7		
	岐阜（C I、一致指数）	99.8	102.0	104.0	105.7		105.4	108.3	106.8			
	三重（C I、一致指数）	80.2	84.5	97.4	101.9	109.5	108.5	108.8	107.9	111.9		
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI） （先行判断DI）	39.6 44.8	52.8 55.4	54.5 55.4	52.3 53.7	55.7 54.4	53.0 56.0	52.6 53.9	56.2 53.1	58.4 56.2	56.6 46.6	54.6 40.4
	短観業況判断DI（大企業製造業） （中小企業製造業） （非製造業）	-17 -15 -6	-3 -22 -2	7 -11 2	17 -3 9	19 8 12	19 <3月予想> 3 <3月予想> 8 <3月予想>					
	法人企業統計経常利益 製造業（兆円） 非製造業（兆円）	0.4 0.2	0.5 0.2	1.1 0.2	0.8 0.3	0.9 0.2						
生産	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	-2.0	4.5	1.7	0.8	-0.5	0.6	-1.5	-1.3	2.1	8.0	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	-3.3	5.3	3.5	0.5	-0.6	0.7	-0.8	-0.5	0.7	7.3	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	0.4	-4.1	-1.1	0.9	-3.1	1.9	-2.4	-3.0	-0.3	0.6	
	鉱工業生産 輸送機械（ " ） 一般機械（ " ）	-6.3 -3.0	10.7 -4.5	0.1 5.7	-3.1 -0.3	1.0 5.4	2.1 4.0	0.7 1.5	-2.2 1.6	0.7 0.6	12.5 12.1	
	電子部品・デバイス工業（ " ） プラスチック製品工業（ " ）	31.0 -2.0	3.1 2.8	6.9 0.5	3.8 -0.2	-5.7 2.9	-0.1 5.9	-11.0 1.2	2.6 -1.3	6.2 0.4	8.5 7.4	
	化 学（ " ） 電気機械（ " ）	-1.6 -3.8	9.6 4.3	-2.8 -2.1	-3.4 5.6	-1.0 3.3	-1.9 2.4	6.2 2.3	-3.9 -0.3	-1.5 1.1	2.6 5.1	
	鉄 鋼（ " ）	-7.1	6.5	3.5	-3.5	3.8	2.1	-1.4	0.8	5.2	-1.7	
	金属工作機械受注 総受注（億円） 国内受注（億円） 海外受注（億円）	286.6 79.0 207.6	290.0 80.4 209.6	322.5 93.8 228.7	352.2 113.2 239.0	360.8 122.8 241.2	358.5 138.0 220.4	361.0 120.5 240.5	358.4 127.4 240.5	363.1 120.6 242.6	329.0 104.9 224.1	
	大口販売電力量	-4.2	-6.3	-1.7	0.2	3.6	0.9	4.7	2.5	3.7	6.2	
	完全失業率（原数値、%） 就業者数（原数値、万人）	3.3 768	3.4 762	3.5 773	3.1 778	3.3 774						
	常用雇用指数 愛知 岐阜 三重	100.4 99.5 98.8	99.4 98.7 96.8	100.1 99.0 97.8	100.2 98.9 98.9	100.2 98.5 98.0	100.1 98.8 98.6	100.0 98.5 98.4	100.4 98.7 97.8	100.3 98.4 97.9		
雇用	有効求人倍率 愛知（季節調整値、倍） 岐阜（季節調整値、倍） 三重（季節調整値、倍）	1.1 1.0 0.9	1.17 0.99 0.90	1.3 1.1 1.0	1.36 1.11 1.07	1.5 1.2 1.2	1.38 1.13 1.09	1.40 1.16 1.12	1.46 1.20 1.16	1.50 1.22 1.19	1.49 1.22 1.19	
	新規求人倍率 愛知（季節調整値、倍） 岐阜（季節調整値、倍） 三重（季節調整値、倍）	1.7 1.4 1.3	1.84 1.51 1.41	2.0 1.7 1.6	2.09 1.66 1.63	2.3 1.7 1.8	2.16 1.71 1.63	2.21 1.74 1.72	2.23 1.76 1.81	2.37 1.72 1.81	2.21 1.88 1.68	
	現金給与総額 所定内給与 所定外給与	-1.6 -1.3 -5.5	-0.5 -0.1 -4.0	1.2 0.8 -0.4	0.9 0.3 3.6	2.1 0.6 8.4	0.2 0.2 8.1	1.8 0.8 8.4	1.3 0.6 8.9	2.7 0.2 7.8		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入 勤め先収入 定期収入	1.3 -4.2	5.7 3.5	6.6 -0.4	1.8 2.9	7.0 8.9	8.6 9.1	8.3 10.6	11.5 6.1	4.3 10.0	0.9 -0.6	
個人消費	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出 百貨店販売額（名古屋市内） 百貨店＋スーパー販売額（名古屋市内百貨店除く） コンビニエンスストア販売額 新車登録台数（含む軽） 家電販売額	-5.9 0.6 0.0 -1.5 -4.2 -5.8	11.8 3.6 -2.4 -1.4 -10.4 -4.0	2.7 7.8 1.1 0.3 -9.0 2.3	3.1 4.0 3.2 0.3 3.5 -	4.8 5.4 3.0 1.4 19.8 -	2.8 4.5 3.1 -0.2 22.8 -2.3	12.8 2.0 4.3 0.1 21.7 3.6	-2.9 8.3 2.7 2.3 15.3 4.6	4.6 5.7 2.3 1.9 23.0 -1.9	6.6 7.8 3.0 -1.5 33.8 12.0	
	消費者態度指数（一般世帯、原数値） トヨタ国内生産台数（季節調整値、万台）	38.0 24.6	43.7 29.7	46.3 29.1	45.0 27.5	41.1 26.0	45.6 27.7	41.4 27.1	41.9 26.0	40.0 24.8	41.2 31.3	38.3 30.5
	新設住宅着工戸数（季節調整済年率換算、千戸） （前年比、%）	106.8 16.7	106.4 8.4	114.5 18.1	121.8 19.7	119.7 11.7	125.3 25.6	117.2 7.0	123.7 17.3	118.1 11.5	114.4 5.8	
	法人企業統計設備投資（製造業） （非製造業） 企業立地件数	0.9 -15.6 -	12.3 17.9 -	10.1 -7.0 -	30.3 -12.9 -	24.8 0.8 -						
	公共投資 公共工事請負額	15.4	-4.5	6.5	26.7	5.4	21.0	6.1	-2.5	13.0	-11.2	13.6
	輸出入 実質輸出（季節調整済、07/12=100） 通関輸出（金額ベース、円建て） 実質輸入（季節調整済、07/12=100） 通関輸入（金額ベース、円建て）	80.8 0.2 93.1 -0.9	82.5 6.7 95.2 5.7	87.4 10.9 97.3 6.7	86.9 16.6 98.0 11.1	88.7 22.0 95.7 22.2	88.0 20.6 101.6 14.0	89.9 23.9 92.0 23.8	87.7 22.0 96.1 18.7	88.5 20.1 99.0 24.0	85.1 13.0 105.4 25.3	7.3 12.1
	物価 消費者物価指数（除く生鮮） （食料及びエネルギーを除く総合）	0.0 -0.4	-0.3 -0.7	-0.1 -0.3	0.6 0.0	1.1 0.8	0.6 0.1	0.9 0.5	1.2 0.8	1.3 1.0	-0.4 -0.6	
金融	国内銀行預金残高 国内銀行貸出残高	1.6 -0.6	1.1 0.0	1.6 1.6	1.9 2.3	2.6 2.4	1.5 3.0	1.8 2.4	3.4 3.3	2.6 1.5	2.9 1.7	-100.0 -100.0
	倒産 倒産件数	-20.3	-8.9	-12.5	-13.3	13.9	-29.0	58.5	0.0	-11.4	0.0	6.1

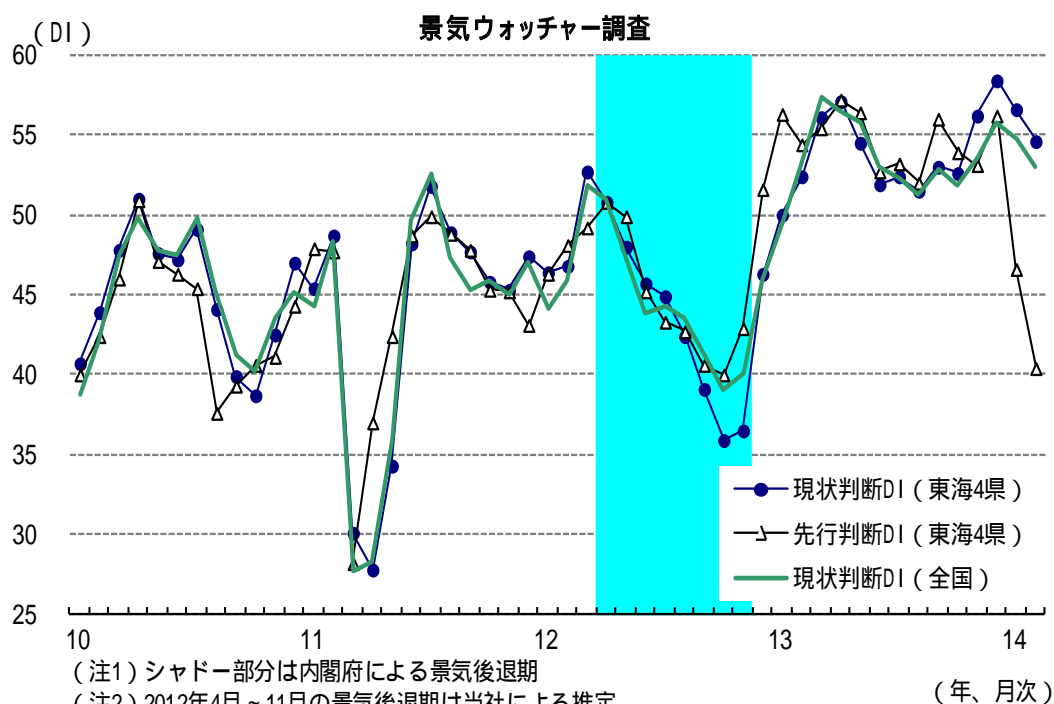
（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ～増税前の駆け込み需要もあり持ち直している

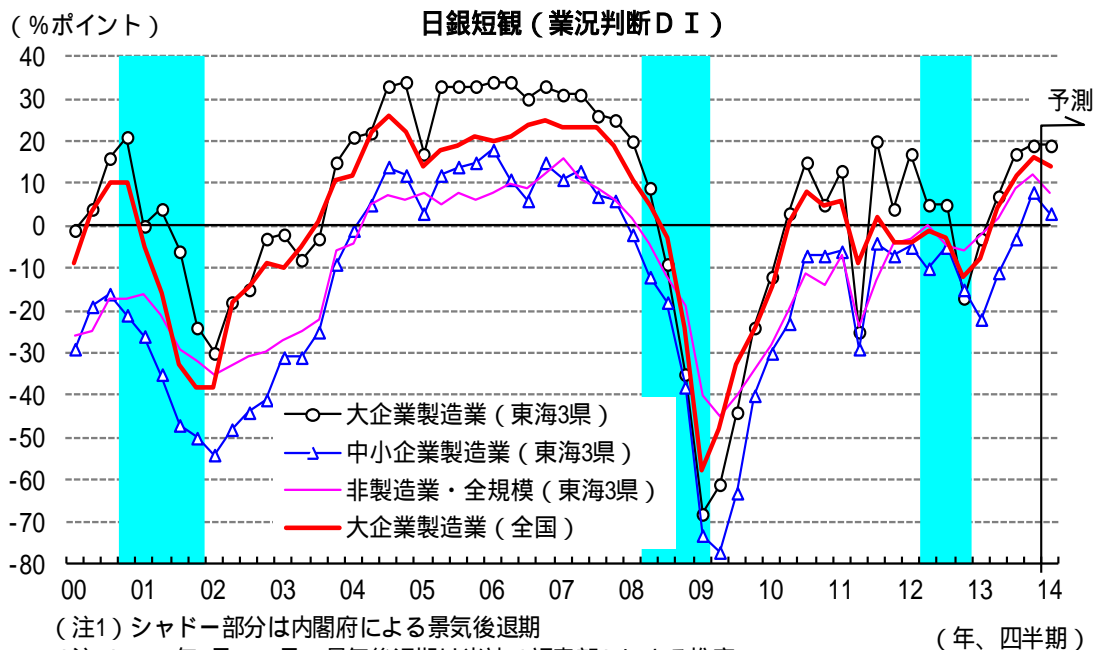
12月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が8系列のうち4系列でプラス寄与となり、前月差+0.4ポイントと4ヶ月連続で上昇した。三重県は前月差+4.0ポイントと2ヶ月ぶりに上昇した。先行指数は、愛知県は低下し、三重県は上昇した。なお、12月の岐阜県の景気動向指数は未発表だが、11月までは緩やかな上昇基調が続いている。



2月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DIが前月差-2.0ポイントと低下した。2月は大雪の影響もあり、家計動向関連の現状判断DIは同-1.2ポイントと2ヶ月連続で低下した。東海4県の先行判断DIは、消費増税後の景気の落ち込みを懸念し、同-6.2ポイントと大幅に低下している。4月以降の景気の先行きに対する警戒感が高まっている。



日銀短観 12月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は+19と、前回9月調査から2ポイント改善した。中小企業製造業も+8と前回調査から11ポイント改善しプラスに転じた。徐々に中小の製造業への波及もみられるが、業況判断D Iの3月予測は、大企業製造業は+19と横ばい、中小企業製造業が+3と5ポイントの悪化が見込まれ、慎重な見方が続いている。



(注1) シャドー部分は内閣府による景気後退期

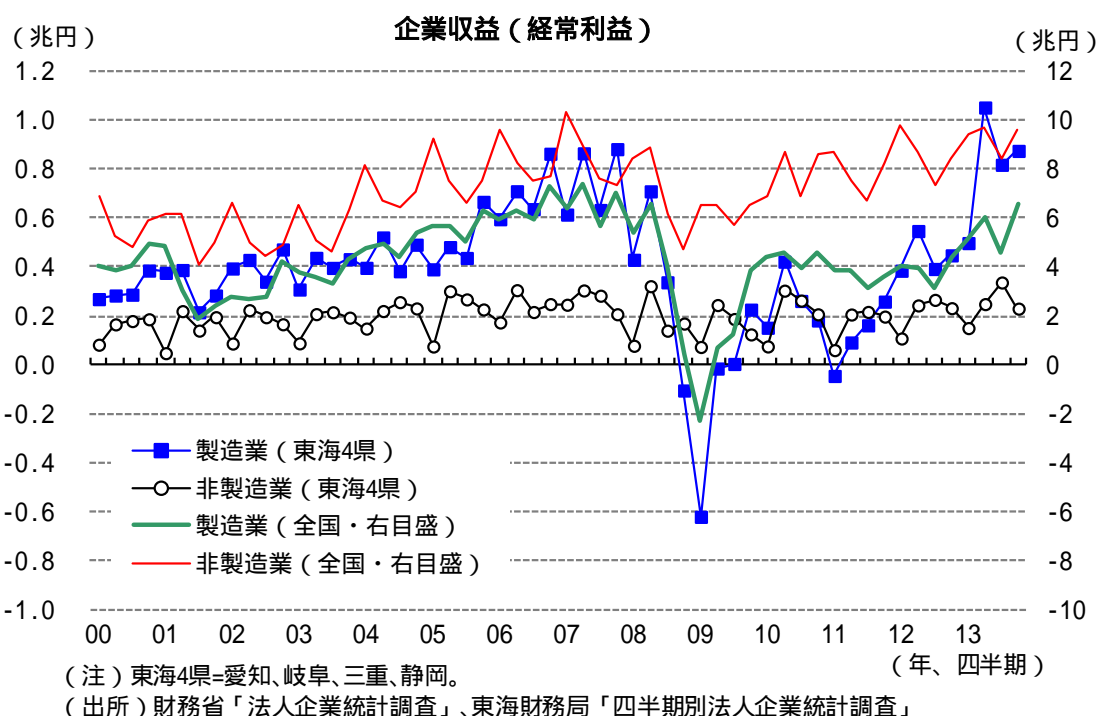
(注2) 2012年4月～11月の景気後退期は当社(調査部)による推定

(注3) 調査対象企業見直し時における前回調査の計数は見直し後で接続。

(注4) 東海3県=愛知、岐阜、三重。

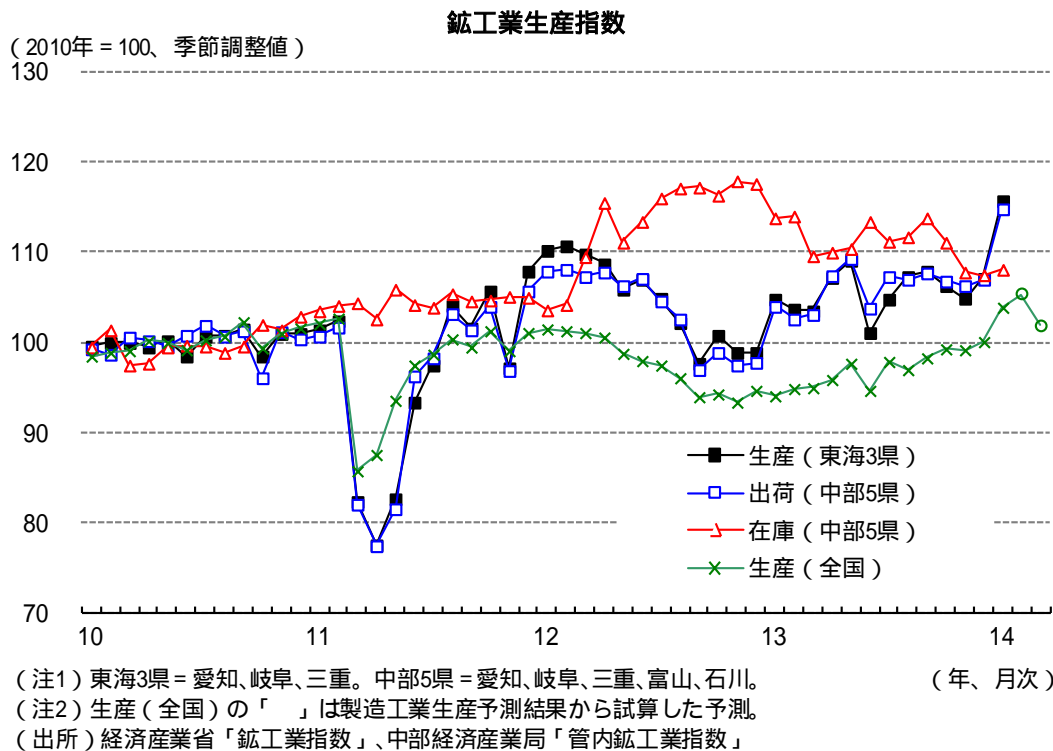
(出所) 日本銀行、日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」

2013年10～12月期の東海4県の企業収益(経常利益、製造業)は前期と同様に大幅な増益となった。円安に加え、米国や東南アジア向けの輸出が堅調に推移したためとみられる。非製造業は前年同期比で-0.8%と減少した。今後は、消費増税前の駆け込み需要に備えて、トヨタの生産計画(季調済)が14年1～3月期に大幅増加の見込みとなっており、年度中の企業収益は堅調に推移すると予想される。

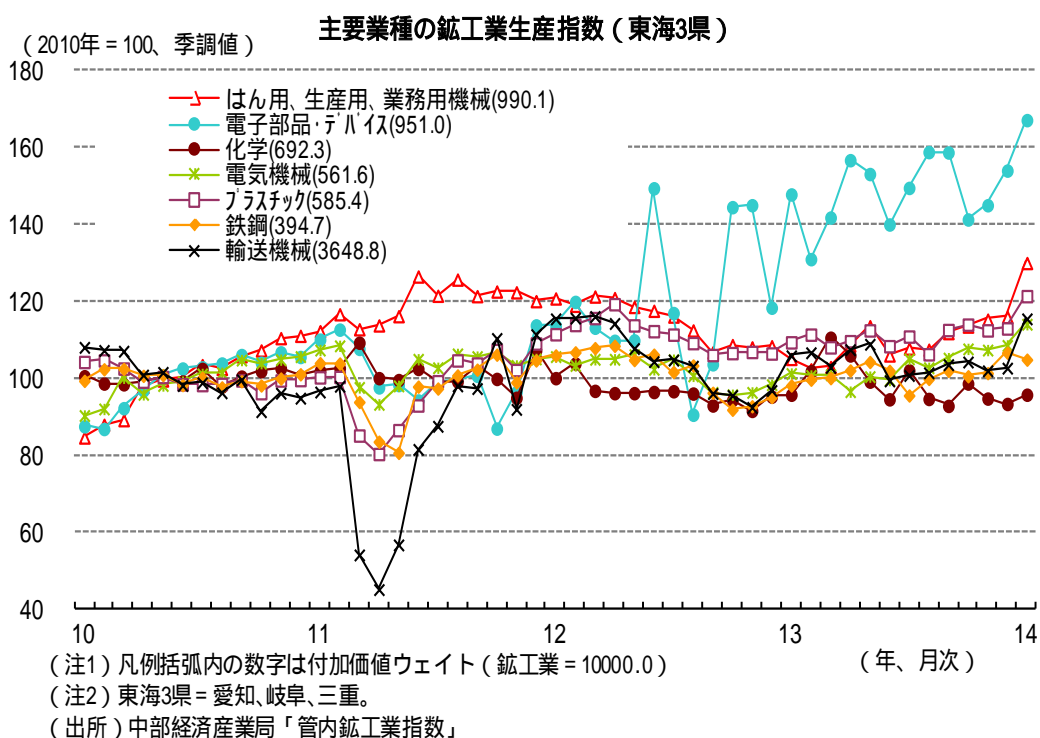


2. 生産 ～増税前の駆け込み需要により増加している

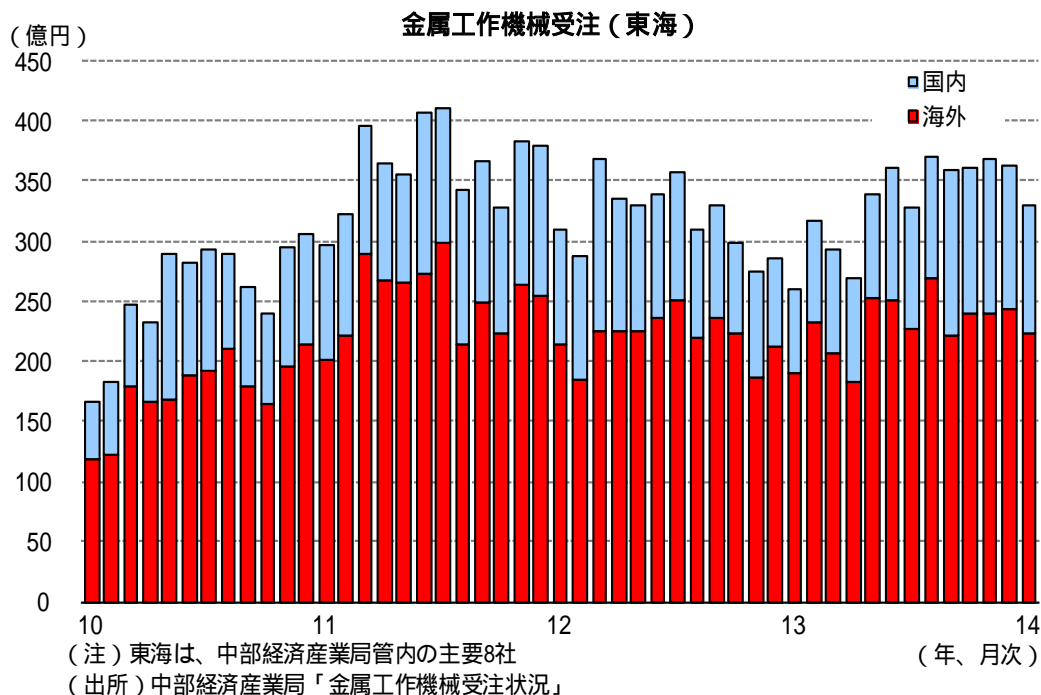
東海3県の鉱工業生産指数は増加している。1月の生産は、増税前の駆け込み需要により前月比+8.0%と2ヶ月連続で増加した。年度末までは、自動車の生産計画も比較的高い水準で推移する見込みとなっているが、4月の増税直後は、自動車販売が一時的に大幅に減少する可能性が高く、自動車を中心に生産全体で減少が予想される（P.11下図 トヨタ国内生産計画参照）。



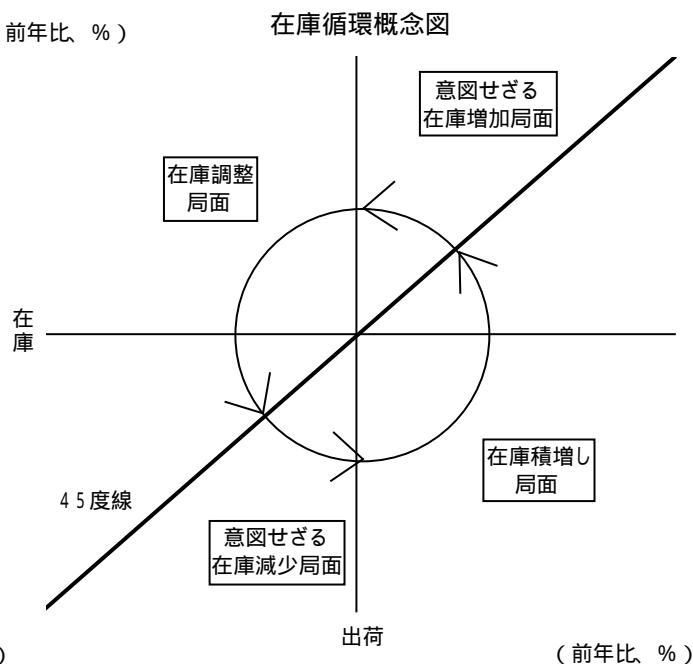
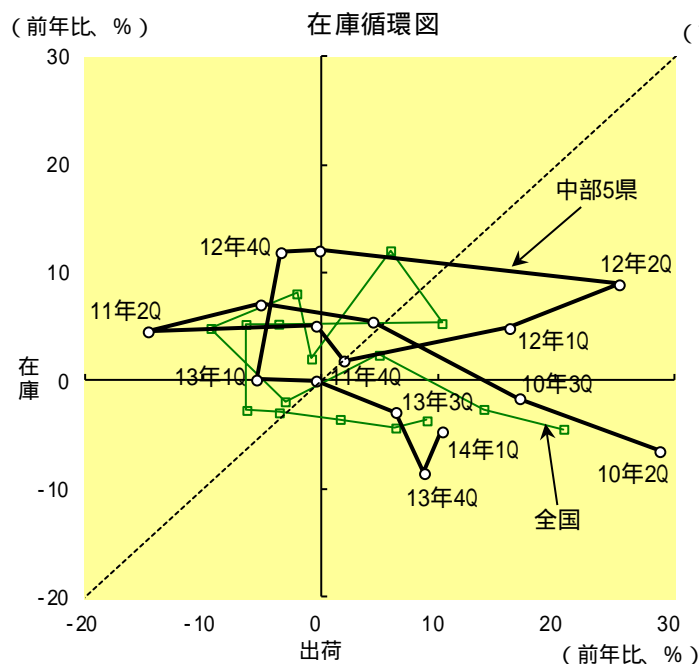
業種別では、乗用車（前月比+21.4%）が2ヶ月ぶりに大きく上昇したほか、自動車部品（同+9.4%）も上昇し、輸送用機械全体で同+12.5%と2ヶ月連続で上昇した。一方、航空機部品（同-6.4%）、鉄鋼（同-1.7%）は低下した。このほか、電子部品・デバイス（同+8.5%）、電気機械（同+5.1%）、プラスチック（同+7.4%）、はん用・生産用・業務用機械（同+12.1%）などは上昇した。



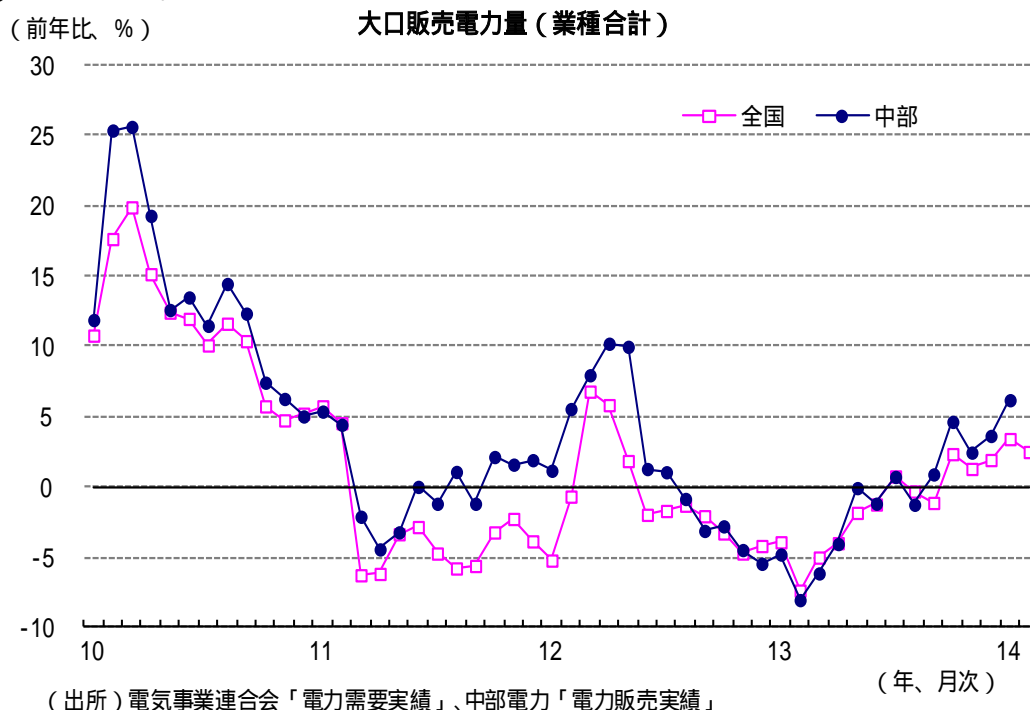
1月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比+26.4%と6ヶ月連続で増加した。国内受注は、自動車向けや一般機械向けを中心に同+49.5%と6ヶ月連続で増加した。海外受注は、同+17.9%と4ヶ月連続で増加した。中国（同+43.7%）を含むアジア全体で同+22.9%と増加し、欧州向け（同+12.2%）も増加したが、米国向け（同-15.3%）は減少した。



1月の中部5県の出荷は、輸送機械や情報通信機械、はん用・生産用・業務用機械などで増加し、前月比+7.3%と2ヶ月連続で増加した。在庫は、主力の輸送機械のほか、電子部品・デバイスなどで増加し、1月は同+0.6%と4ヶ月ぶりに増加した。製造業全体では、駆け込み需要に備えて在庫水準を引き上げる動きも出ている。

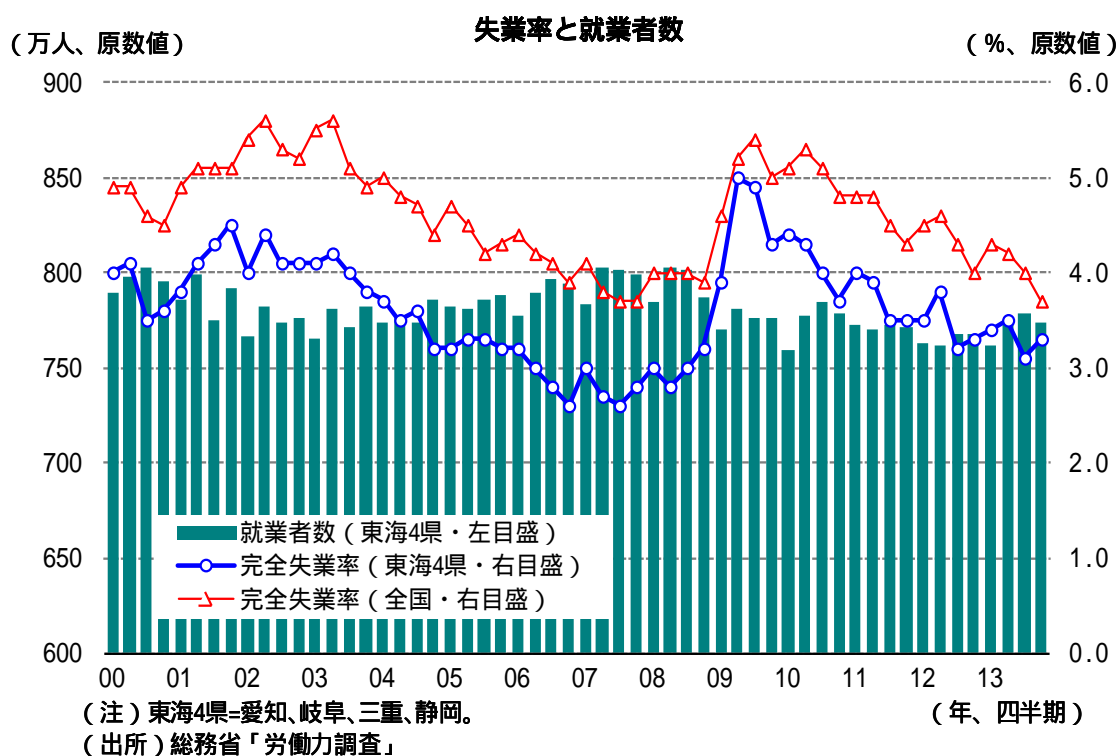


1月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、前年比+6.2%と5ヶ月連続で増加した。自動車などの機械工業向けは同+9.2%と7ヶ月連続で増加した。自動車用鋼材や建築用鋼材の生産増が続いている鉄鋼業向けは、同+12.0%と5ヶ月連続で増加した。自動車部品を含む窯業・土石向け（+4.8%）も増加した。

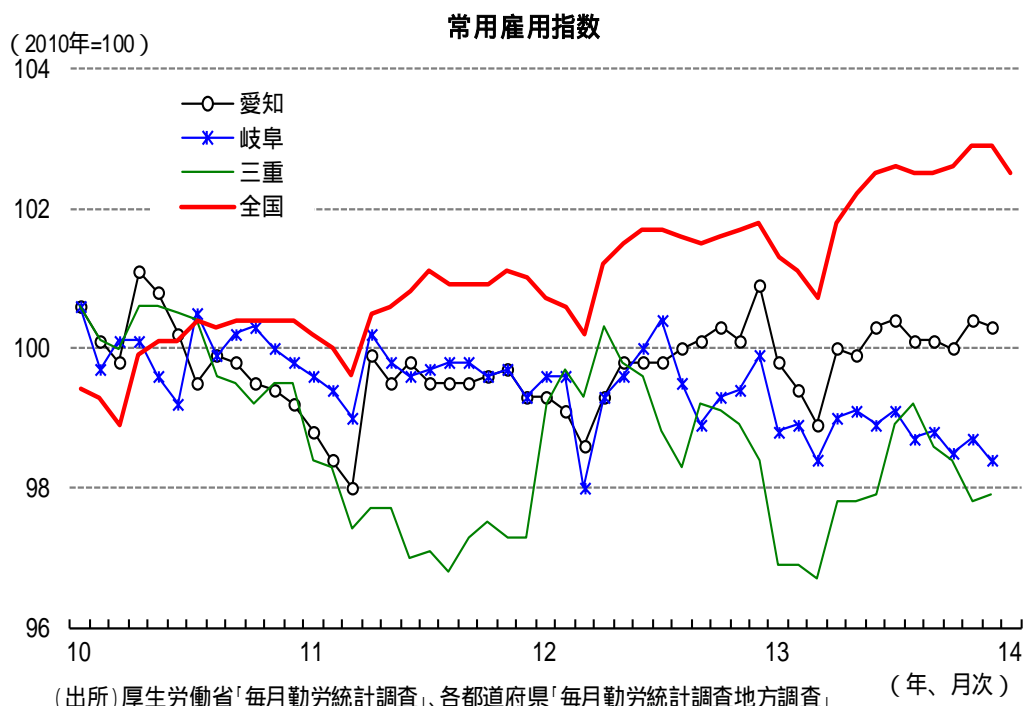


3. 雇用 ～持ち直しが一服している

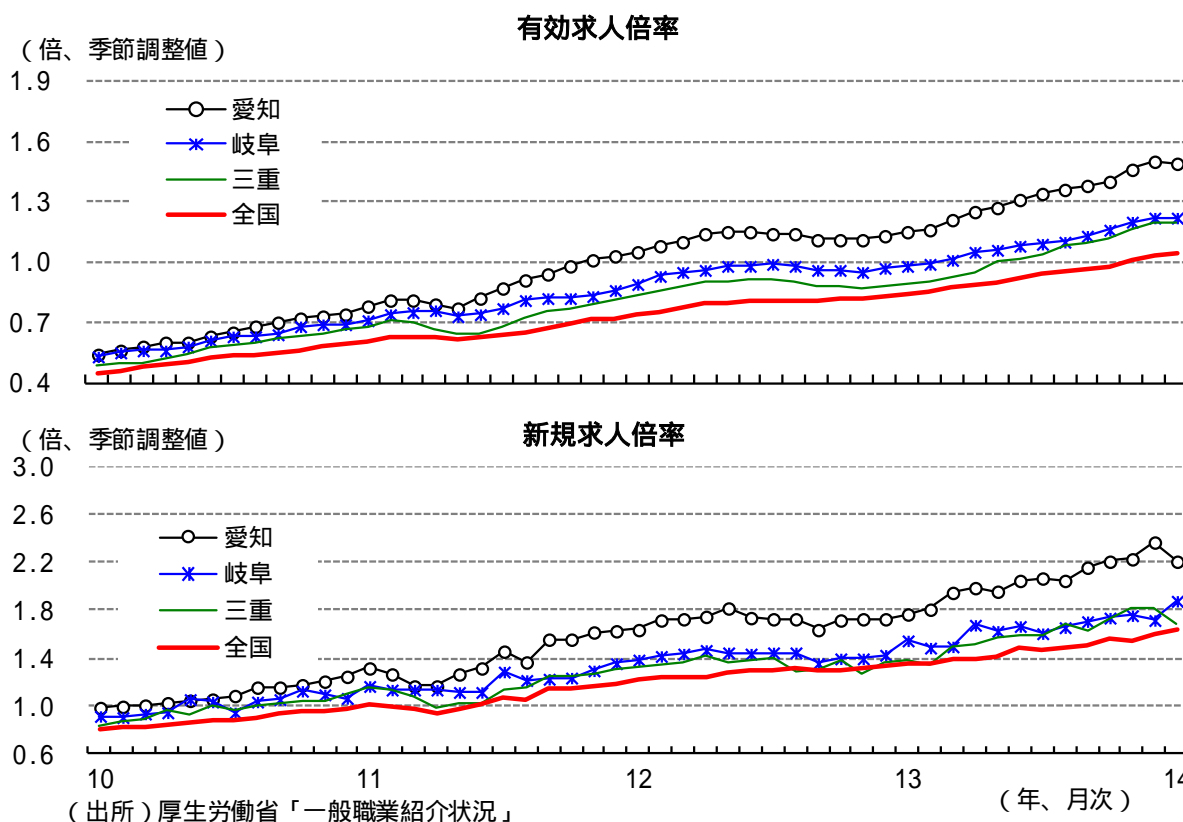
2013年10～12月期の東海4県の完全失業率は3.3%（前年差±0%ポイント）と全国（3.9%）と比べて低水準で推移している。一方、同時期の就業者数は前年差6万人の増加となった。常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きが続いており、足元では東海3県とも前年比低下している。改善が続いていた愛知県の有効求人倍率と新規求人倍率はいずれも弱含んでいる。



12月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比 - 0.6%と2ヶ月ぶりに低下したほか、岐阜県も同 - 1.5%と9ヶ月連続での低下、三重県も同 - 0.5%と4ヶ月連続での低下と、3県とも低下した。全国（同 + 1.1%）に比べて、依然として弱い動きが続いている。

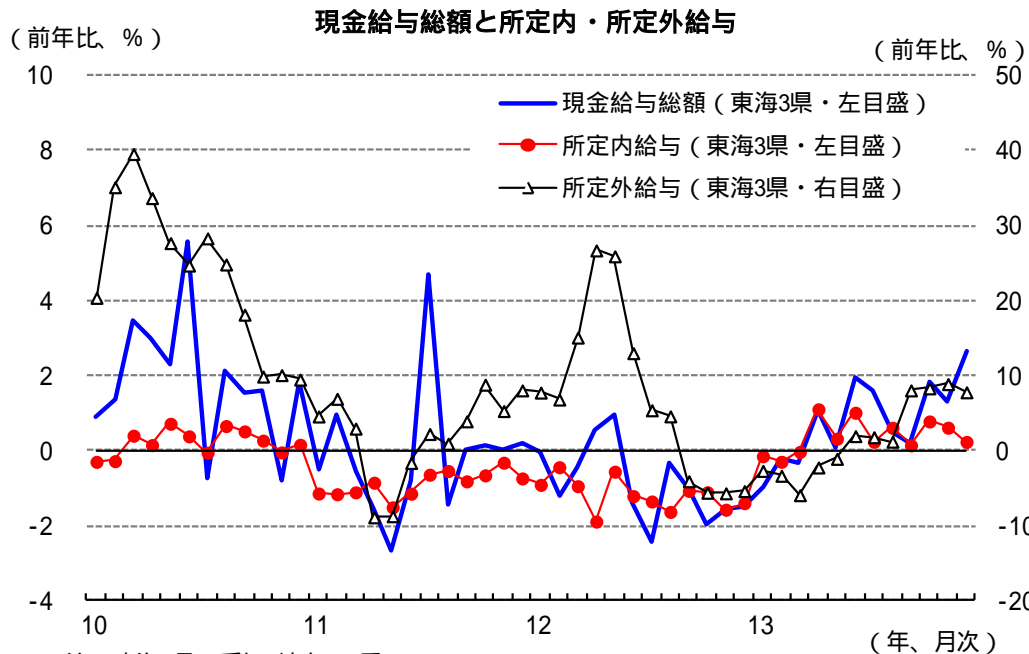


1月の東海3県の有効求人倍率（季節調整値）は、愛知県は16ヶ月ぶりに低下し、1.49倍となった。14ヶ月連続で改善が続いていた岐阜県と三重県もそれぞれ1.22倍、1.19倍と横ばいとなった。新規求人倍率（同）は、愛知県が2.21倍と5ヶ月ぶりに悪化し、三重県も1.68倍と4ヶ月ぶりに悪化した。一方、岐阜県は1.88倍と2ヶ月ぶりに改善した。



4. 賃金 ～緩やかに持ち直している

12月の一人当たり現金給与総額は前年比+2.7%と増加し、9ヶ月連続のプラスとなった。所定内給与は同+0.2%と9ヶ月連続で増加し、所定外給与も同+7.8%と7ヶ月連続で増加した。企業の人件費抑制姿勢は根強いが、大企業を中心に冬のボーナスが増加したとみられるほか、政府の賃上げ要請に応え、春闘では定昇に加えベアを実施する企業も増える見通しで、賃金は持ち直し傾向が続くだろう。

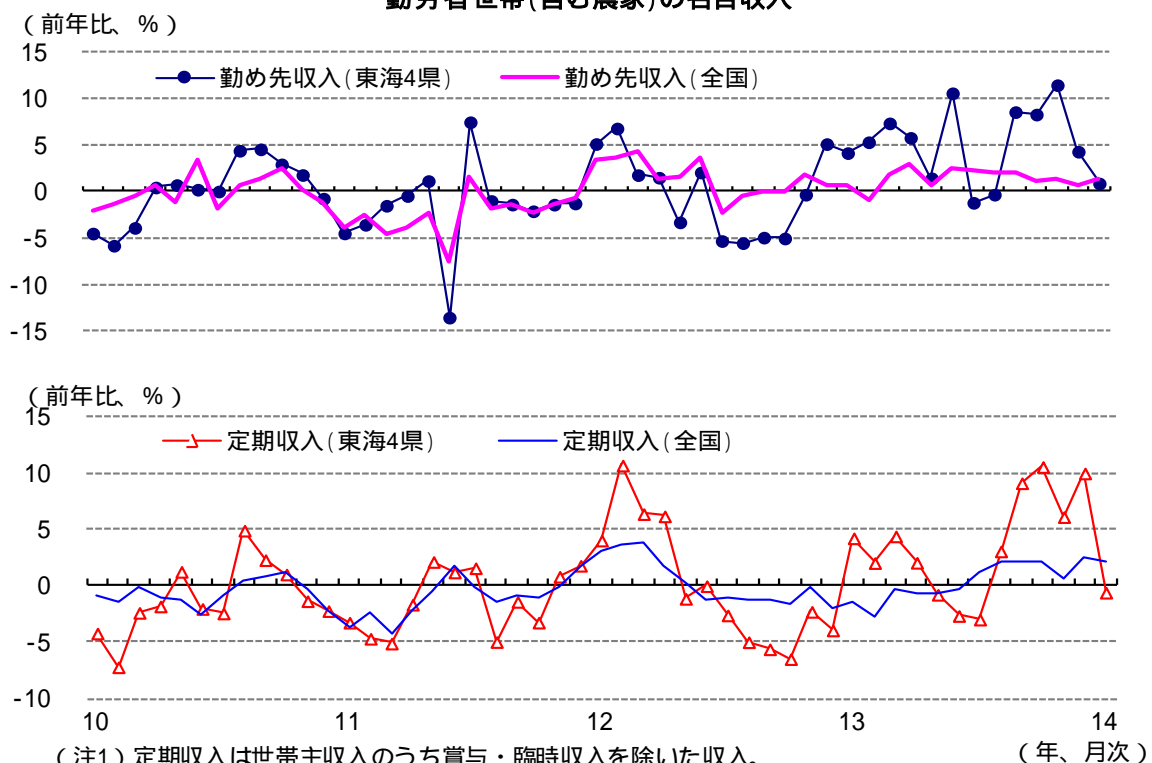


(注) 東海3県 = 愛知、岐阜、三重。

(出所) 各都道府県「毎月勤労統計調査地方調査」

家計調査によると、1月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比+0.9%と5ヶ月連続で増加した。1月の定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)は前年比-0.6%と6ヶ月ぶりに減少した。

勤労者世帯(含む農家)の名目収入



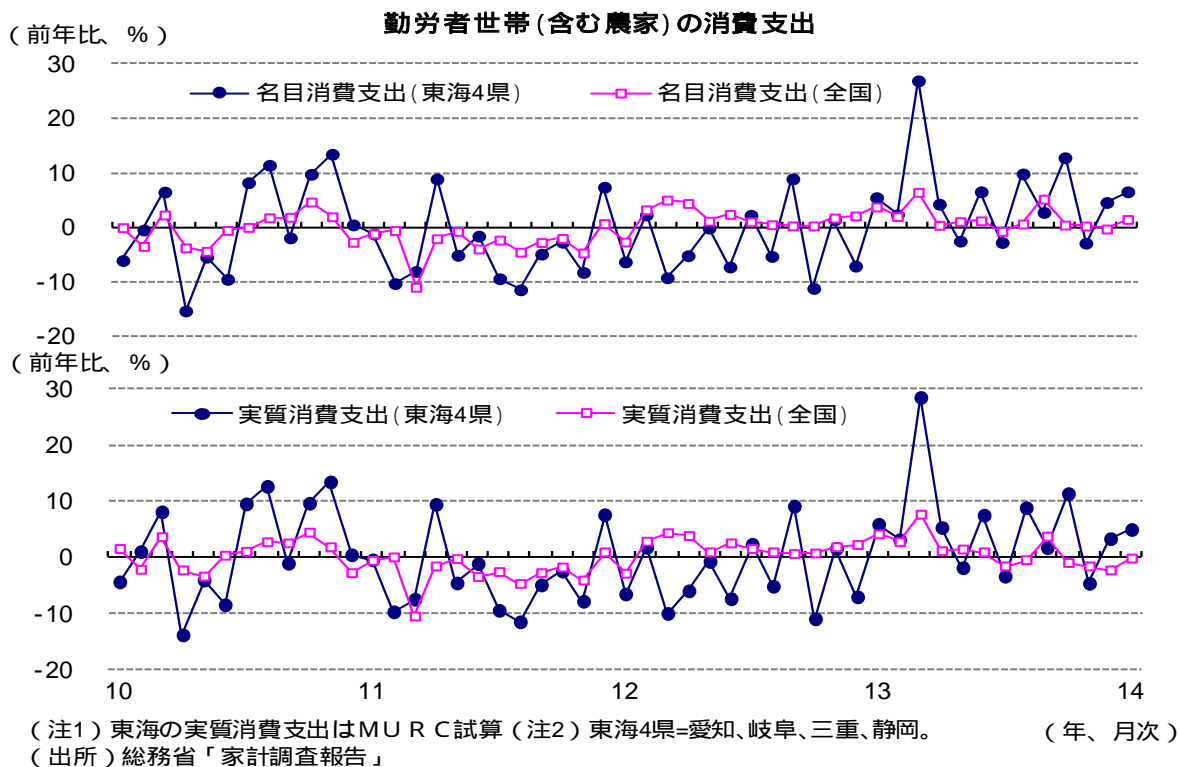
(注1) 定期収入は世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入。

(注2) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。

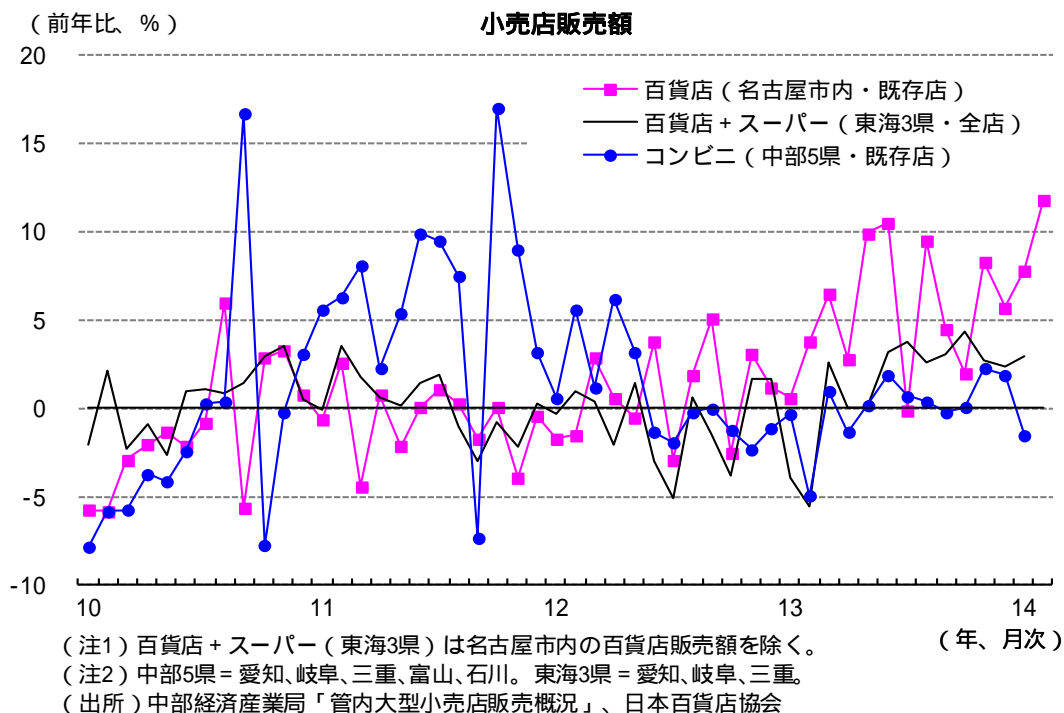
(出所) 総務省「家計調査報告」

5. 個人消費 ～増税前の駆け込み需要もあり持ち直している

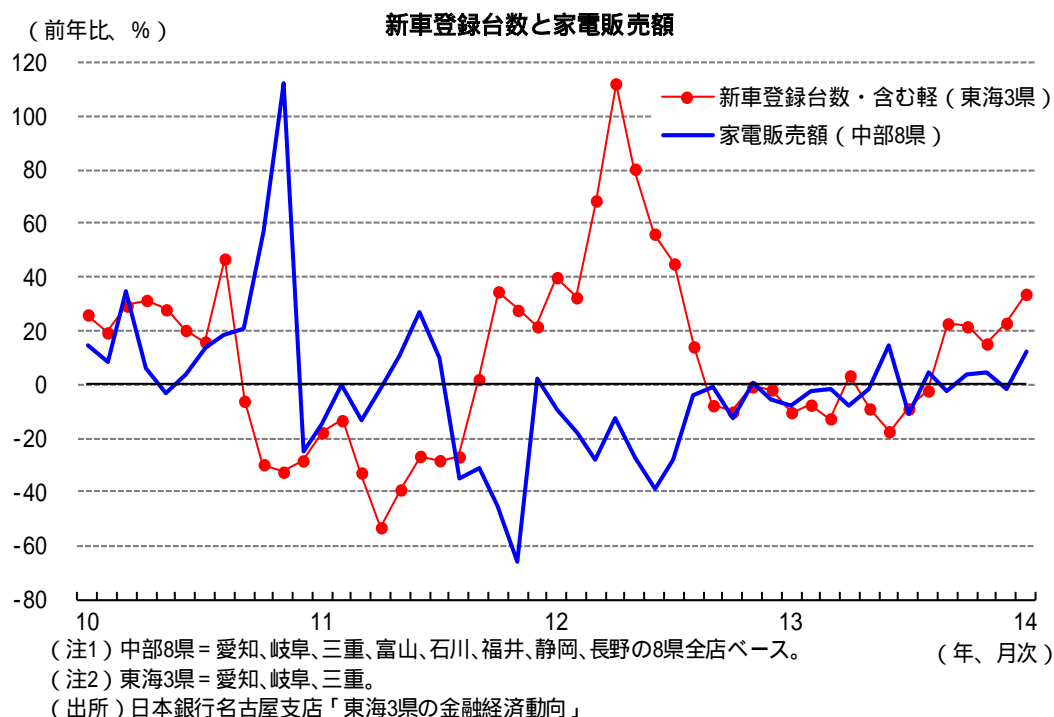
1月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は、前年比+6.6%と2ヶ月連続で増加した。株価が乱高下し、消費者マインドも急速に低下する中で、名目・実質消費支出とも均してみると緩やかに持ち直している。冬のボーナスが増加したことから高額消費が好調を維持しており、春闘の妥結結果も消費者マインドの持ち直しに寄与するだろう。



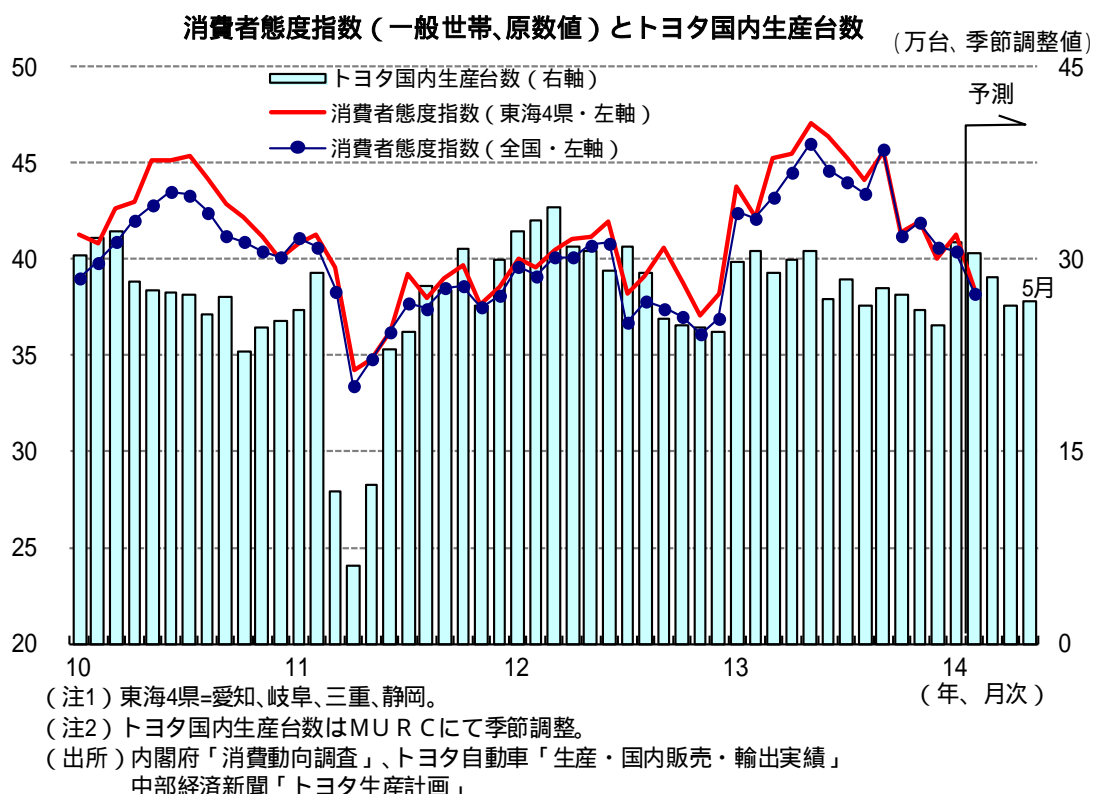
2月の名古屋市内の百貨店販売額は前年比+11.8%と7ヶ月連続で増加した。冬のボーナスの増加や増税前の駆け込み需要により、高級時計や宝飾品、ブランド品などの高額品が引き続き堅調だった。1月の東海3県の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額は同+3.0%と11ヶ月連続で増加したが、中部5県のコンビニ販売額は新規出店の増加に伴う競争激化で同-1.5%と4ヶ月ぶりに減少した。



1月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比+33.8%と5ヶ月連続で増加した。増税前の駆け込み需要に加え、新車投入効果によりハイブリッド車やコンパクトカーの販売が好調に推移している。年度中は、このまま駆け込み需要が続き、堅調に推移するとみられる。一方、1月の中部8県の家電販売額も、駆け込み需要を背景に同+12.0%と2ヶ月ぶりに増加した。

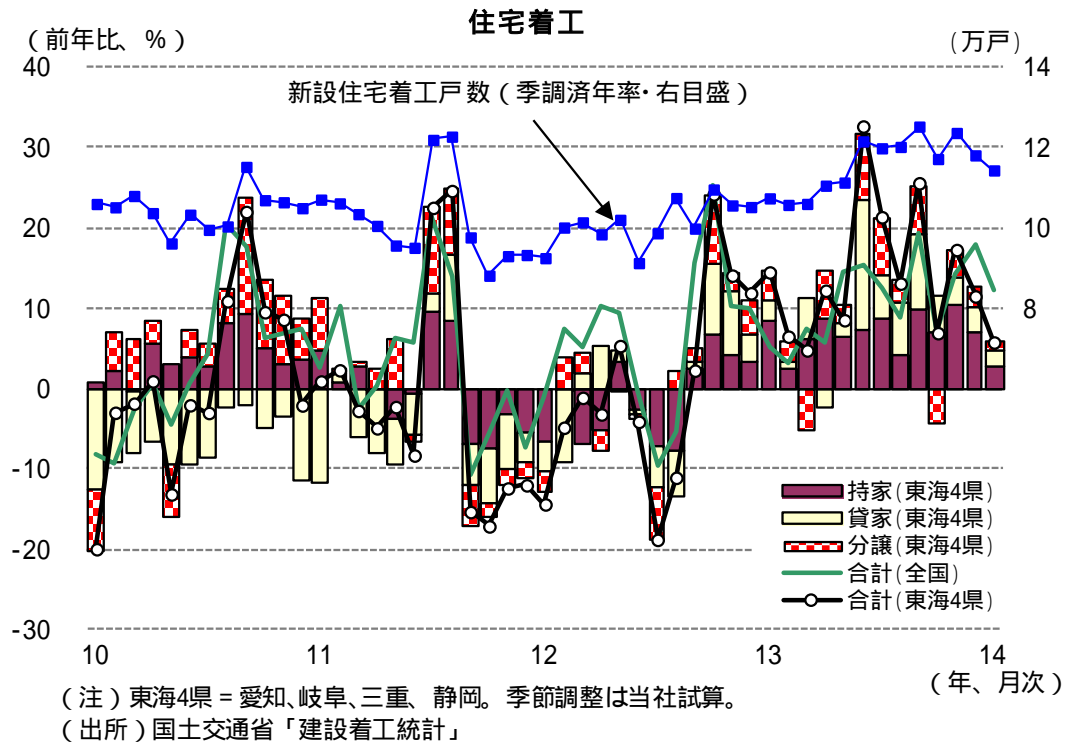


消費者マインドを表す2月の消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、前月比-2.9ポイントと、2ヶ月ぶりに悪化した。年明け以降、株価は乱高下しており、トヨタの生産水準が高まっているにも関わらず、消費者マインドは悪化傾向となっている。4月以降は消費増税に加え、駆け込みの反動による生産減が見込まれ、消費者マインドの低迷が懸念される。



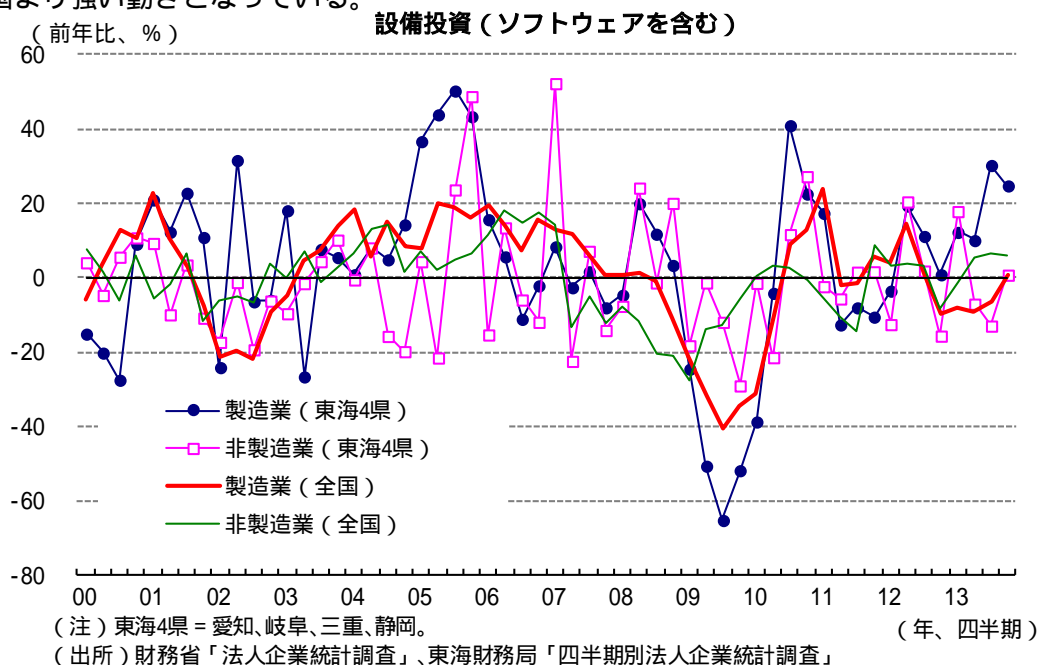
6. 住宅投資 ～緩やかに減少している

1月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比-3.2%と2ヶ月連続で減少した。前年比では+5.8%の9,105戸と17ヶ月連続の増加となったがプラス幅は縮小した。利用関係別の寄与度は、持家が前年比+2.8%、貸家が同+2.1%、分譲は同+1.0%と持ち家が寄与した。昨年9月末の契約ベースでの現行税率適用期限前の駆け込み需要が一段落した後、着工ベースでも徐々に水準を切り下げている。

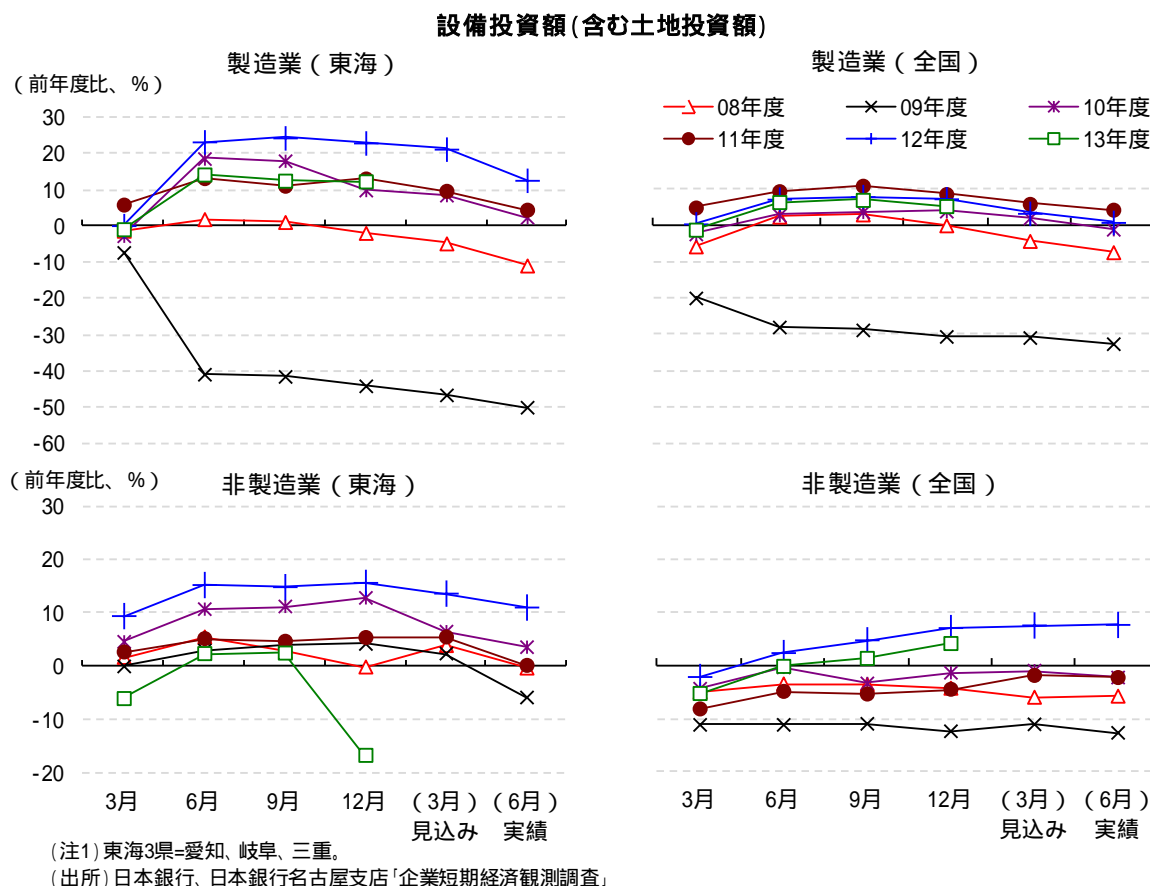


7. 設備投資 ～製造業を中心に増加している

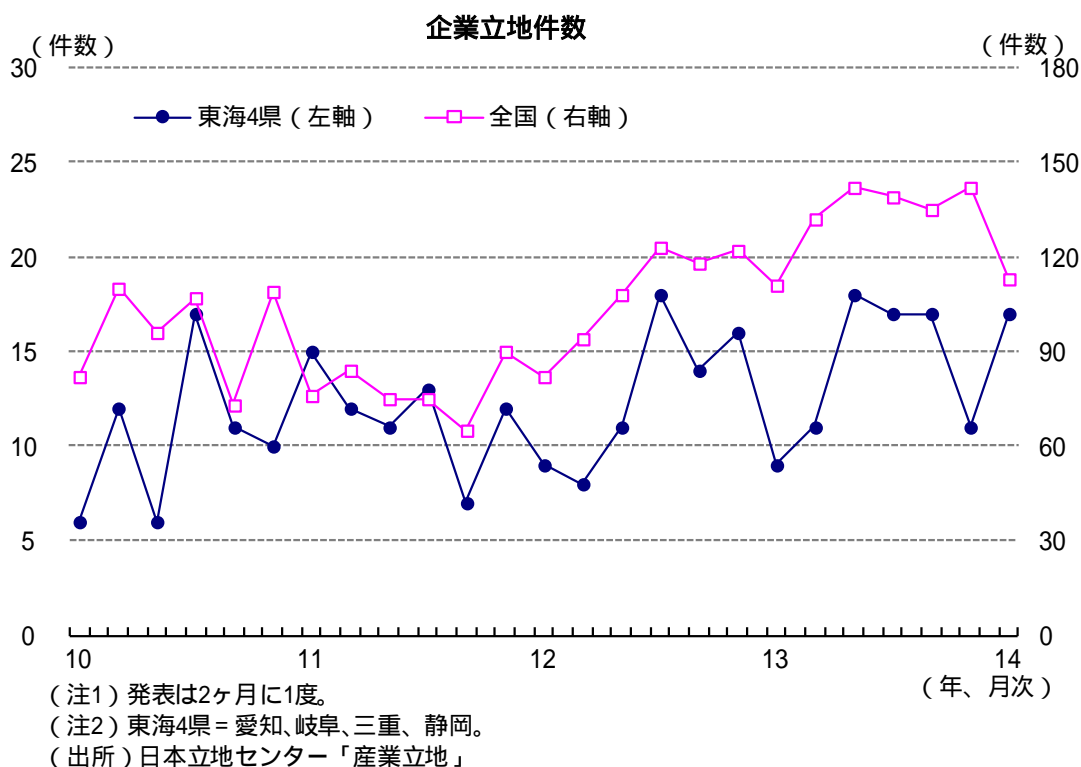
2013年10～12月期の東海4県の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+11.6%と4四半期連続で増加し、増加幅も前期7～9月期(+7.4%)から拡大した。非製造業の設備投資が前年比+0.8%、製造業が前年比+24.8%と増加した。全国は非製造業の設備投資を中心に増加しているが、東海では製造業が全国より強い動きとなっている。



日銀短観12月調査では、13年度通期で製造業が前年比+12.4%と増加見込みだが、非製造業は9月調査の同+2.5%から12月調査では同-16.6%と減少見込みに転じている。業種別にみると電気・ガスの下方修正が響いており、東海の設備投資は製造業中心の動きとなっている。

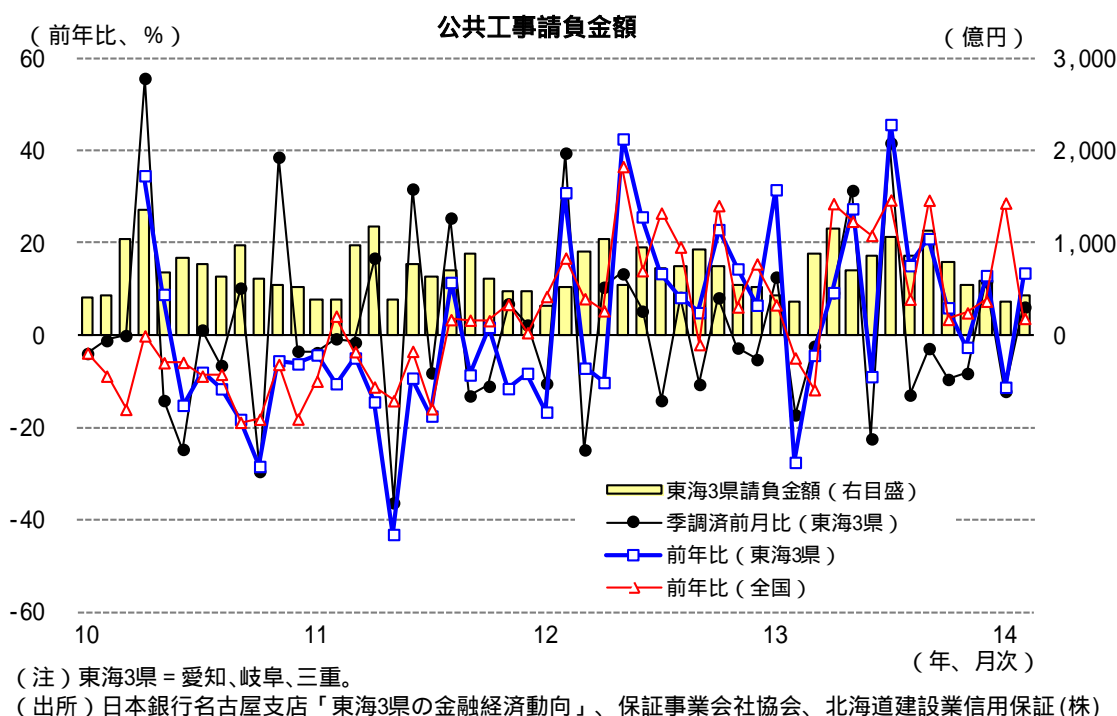


2013年12月・2014年1月の東海4県の企業立地件数は17件と、前期（11件）から6件増加し、前年同期（9件）と比べても8件増加した。東海地域では、2012年以降、円高定着などもあり製造業を中心に全国と比べて企業立地件数が伸び悩んでいたが、全国の動きにやや追いついてきた。



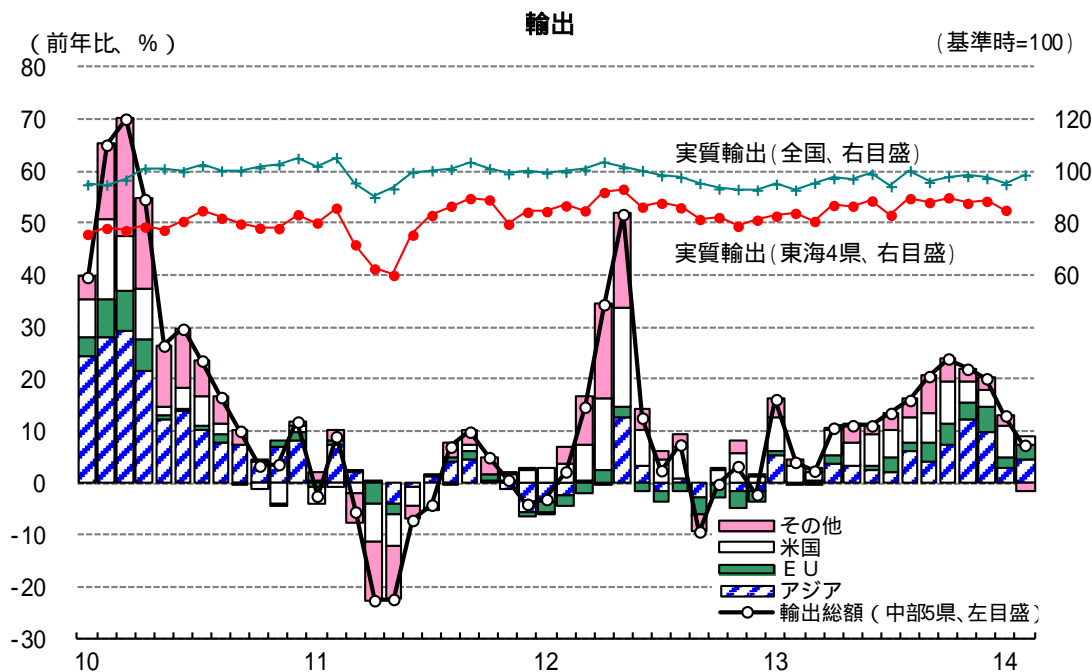
8. 公共投資 ～増加が一服している

2月の東海3県の公共工事請負額は、前年比 +13.6%の420億円と2ヶ月ぶりに前年を上回った。発注者別では、国が同 +21.7%、地方も同 +9.1%といずれも2ヶ月ぶりの増加となった。季調済み前月比も +6.2%と2ヶ月ぶりの増加となった。前年比の伸びは大きく変動しているが、12年度の国の補正予算の執行に伴う緊急経済対策に係る工事の請負は一段落し、均してみると前年並み水準で推移している。



9. 輸出入 ～輸出は減少、輸入は増加

1月の実質輸出（季調済）は、前月比 - 3.9%と2ヶ月ぶりに減少した。2月の名古屋税関管内の輸出額は、前年比 + 7.3%と14ヶ月連続で増加したが伸びは鈍化している。米国向けが同 + 7.2%と17ヶ月連続、アジア向けも同 + 12.6%と14ヶ月連続で増加し、EU向けも同 + 23.4%と11ヶ月連続で増加した。ただし、アジア向けと米国向けの増加が一巡しており、当面は横ばい圏での推移が予想される。

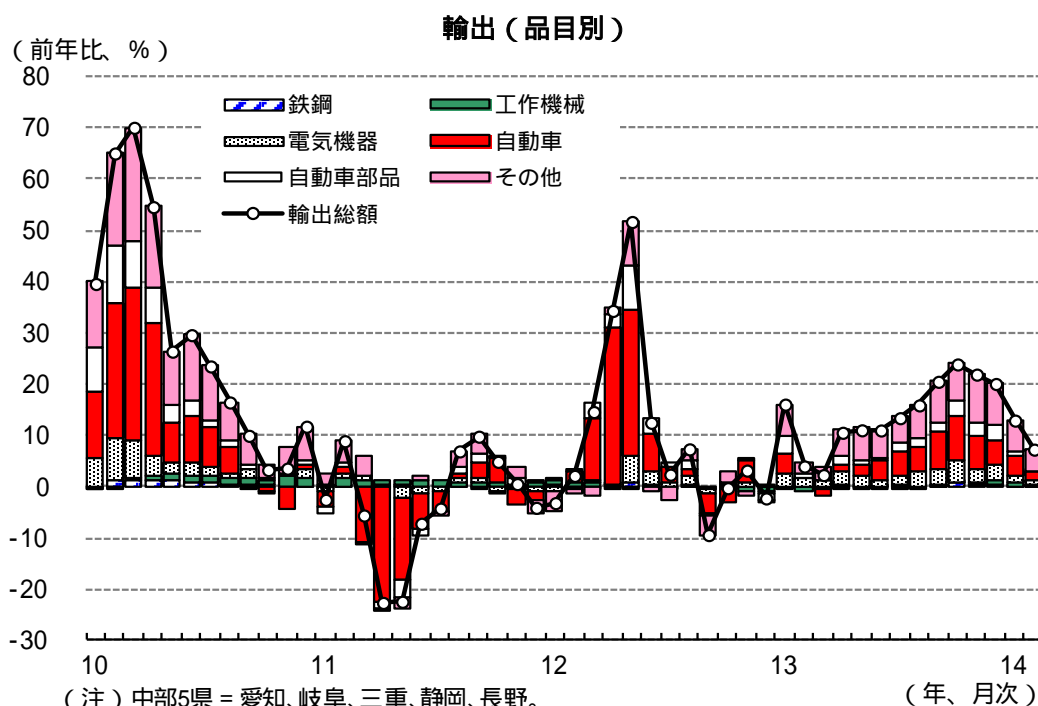


(注1) 実質輸出 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。 (年, 月次)

(注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

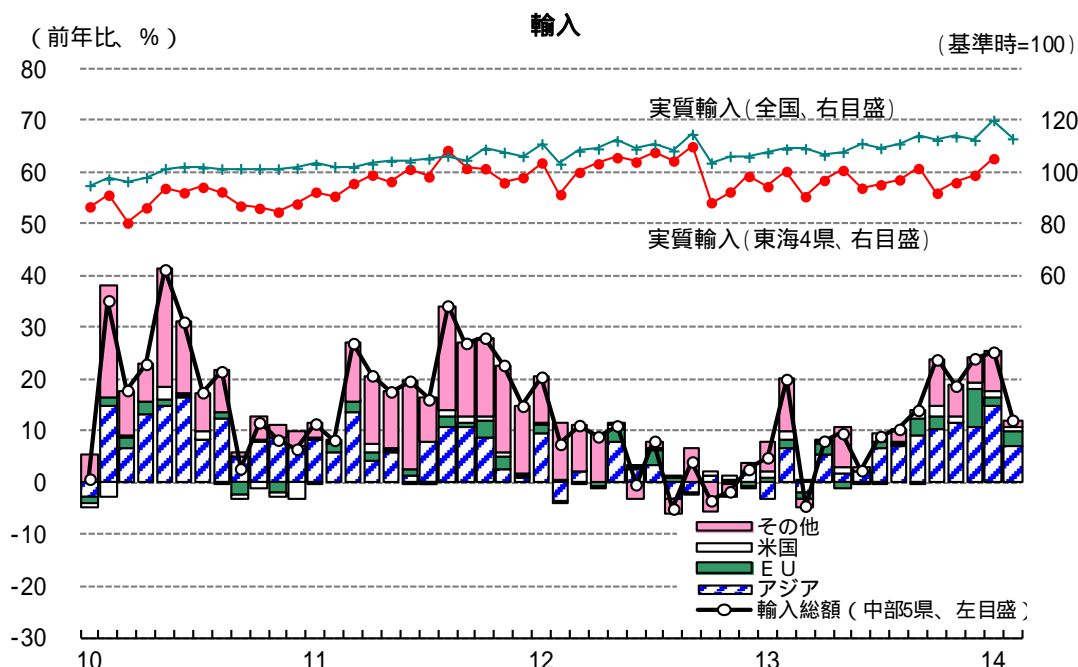
2月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、主力の自動車（前年比 + 6.0%）や自動車部品（同 + 1.6%）の増加が寄与し全体をけん引したほか、鉄鋼（同 + 0.4%）が8ヶ月連続、工作機械（同 + 17.9%）が6ヶ月連続、電気機器（同 + 5.0%）が14ヶ月連続で増加した。



(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。

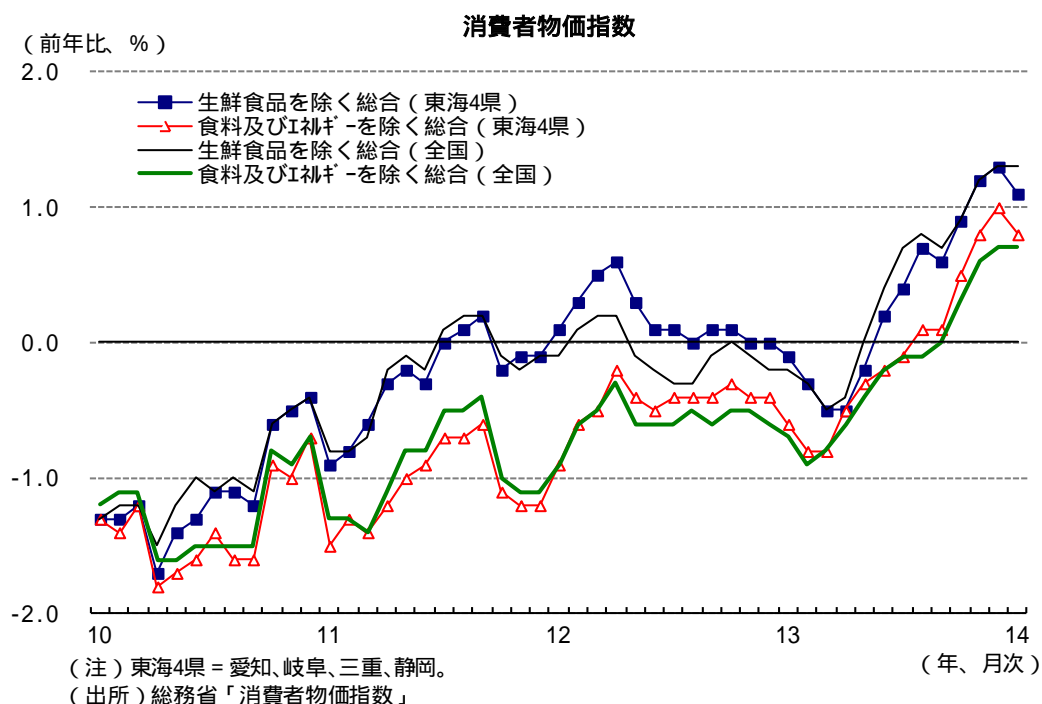
(出所) 財務省「貿易統計」

1月の実質輸入（季調済）は前月比+6.5%と3ヶ月連続で増加した。このところ変動しながらも総じて横ばい圏の動きが続いていたが、増税前の駆け込み需要を背景に輸入も増加している。2月の名古屋税関管内の輸入額は前年比+12.1%と11ヶ月連続で増加したが、プラス幅は縮小した。今後は、駆け込み需要に合わせた輸入増の反動が見込まれ、実質輸入は横ばい圏での推移が続くと予想される。



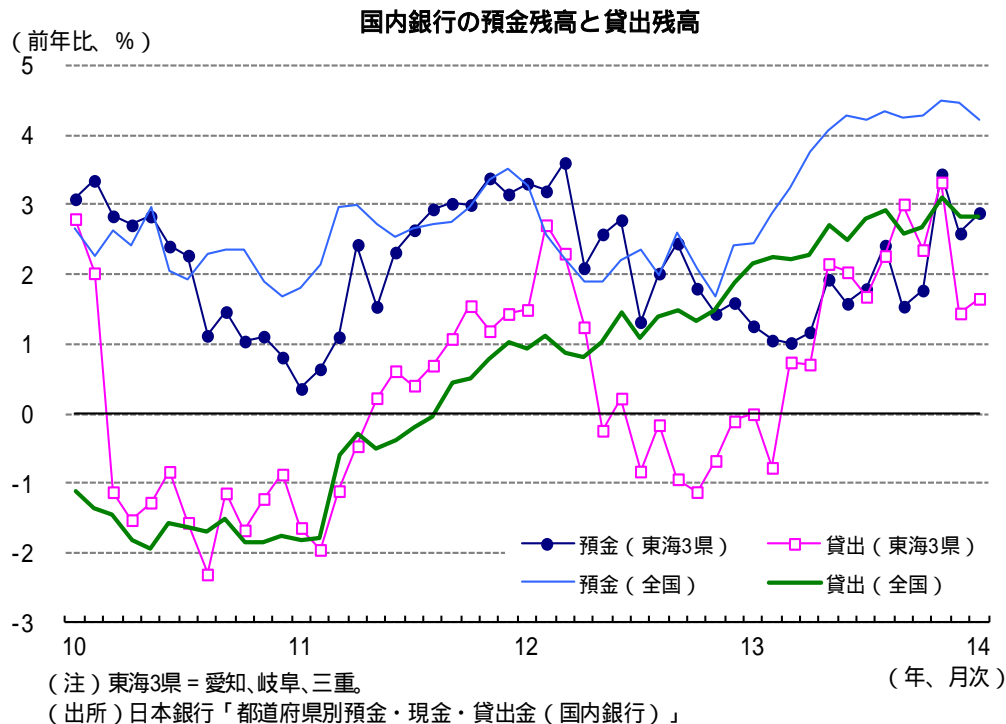
10. 物価 ~ 消費者物価は上昇

1月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合で、前年比+1.1%と8ヶ月連続のプラスとなった。電気・ガス料金やガソリン代、洋服などの上昇が寄与した。食料・エネルギーを除く総合は、同+0.8%と6ヶ月連続のプラスとなった。輸入物価上昇に伴うコストアップ要因は一巡しつつあるが、需給の引き締まりにより幅広い品目で値上げが見込まれ、今後も、物価は上昇傾向が続くとみられる。



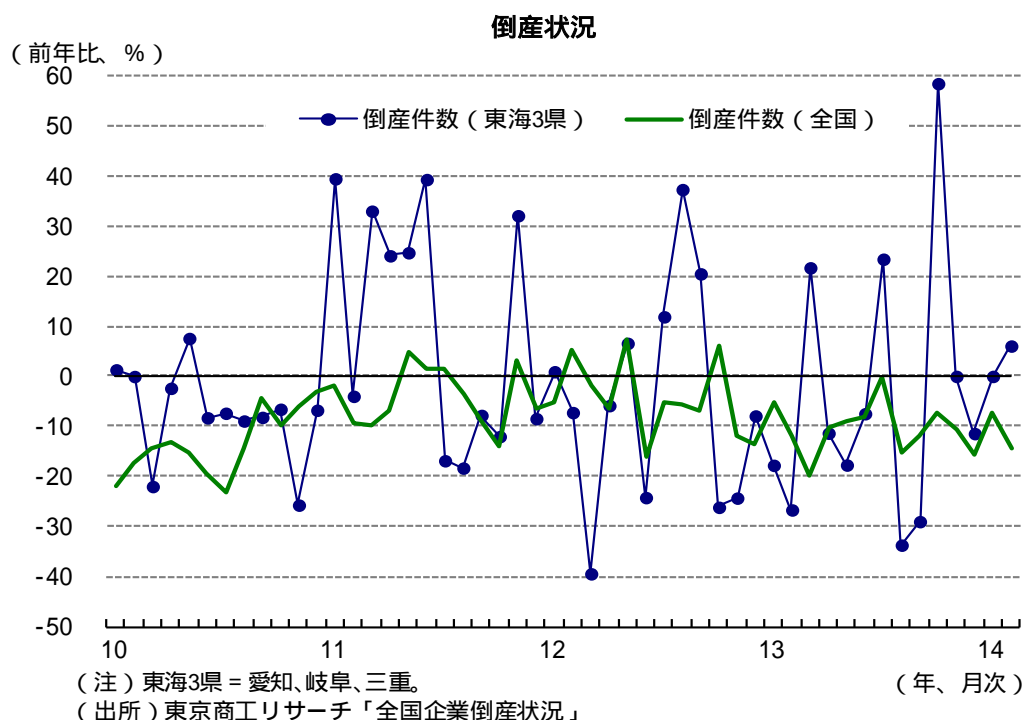
11. 金融 ～預金、貸出ともに増加

1月の東海3県の預金残高（国内銀行ベース）は、個人預金が堅調に推移し、前年比+2.9%と増加が続いている。一方、貸出残高（国内銀行ベース）は、同+1.7%と11ヶ月連続で増加したが、一部企業でのM & A関連の大口貸出の寄与が一巡し、増加率は大幅に縮小している。自動車の増産局面では設備投資などの資金需要が見込まれるため、貸出残高は増加基調で推移する可能性が高い。



12. 倒産 ～倒産件数は増加、負債総額は減少

2月の東海3県の倒産件数は70件と、前年比で+6.1%増加した。愛知県（同-14.5%）は2ヶ月ぶりに減少したが、岐阜県（同+87.5%）は2ヶ月ぶりに増加し、三重県（同+166.7%）は2ヶ月連続で増加した。小規模事業者の倒産が目立つが、業種別では建設業の倒産が減少し、製造業や卸売・小売業の倒産が多い。2月の東海3県の負債総額は、同-64.1%の108億円と3ヶ月連続で減少した。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗	☁	→	輸出	全国	→	☁	↗
	東海	↗	☁	↘		東海	↘	☁	→
	関西	↗	☁☔	→		関西	→	☁☔	↗
個人消費	全国	↗	☁	↘	輸入	全国	↗	☀	↘
	東海	↗	☁	↘		東海	↗	☁	↘
	関西	↗	☁	↘		関西	↗	☁	↘
住宅投資	全国	↗	☀	↘	生産	全国	↗	☁	→
	東海	↘	☁	↘		東海	↗	☁☀	↘
	関西	↘	☁	↘		関西	↗	☁☔	→
設備投資	全国	→	☁	↗	雇用	全国	↗	☁	↗
	東海	↗	☁	→		東海	→	☁	→
	関西	↗	☁☔	↗		関西	↗	☁	↗
公共投資	全国	↗	☁	→	賃金	全国	→	☔	→
	東海	→	☁	↗		東海	↗	☁	↗
	関西	→	☁	→		関西	↘	☔	→



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は12月3日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		2月のコメント	3月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しが一服している	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	持ち直している	増税前の駆け込み需要もあり増加している
	東海	横ばい圏で推移	増税前の駆け込み需要により増加している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	持ち直しが一服している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
5. 個人消費	全国	増税前の駆け込み需要もあり増加している	増税前の駆け込み需要もあり増加している
	東海	緩やかに持ち直している	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
6. 住宅投資	全国	横ばい	横ばい
	東海	持ち直しが一服している	緩やかに減少している
	関西	増加傾向にある	増加が一服している
7. 設備投資	全国	増加が一服	緩やかに増加している
	東海	製造業を中心に増加している	製造業を中心に増加している
	関西	非製造業を中心に持ち直している	非製造業を中心に持ち直している
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加が一服している	増加が一服している
	関西	増加している	増加が一服している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直しが一服、輸入は増加傾向	輸出は横ばい、輸入は増税前の駆け込み需要もあり増加
	東海	輸出、輸入ともに横ばい	輸出は減少、輸入は増加
	関西	輸出は横ばい、輸入は持ち直しの動き	輸出は横ばい、輸入は増税前の駆け込み需要もあり増加
10. 物価	全国	国内企業物価、消費者物価はともに上昇	国内企業物価、消費者物価はともに上昇
	東海	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇
	関西	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネースtockともに緩やかに増加	銀行貸出、マネースtockともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数は横ばい、負債総額は減少	倒産件数は増加、負債総額は減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が 改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- ┃ 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ┃ また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- ┃ 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- ┃ 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- ┃ 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。